

白神山地周辺地域のスギ人工林の現況

森林空間利用タイプに分布するスギ人工林は約1,277haと広い面積を占めています。林齢は25~40年生ですが、平均樹高は6mから24m程度と大きな差がみられます。立木本数も600本/haから最大で3,700本/haと大きな幅があり、2,000本/ha以上の過密な人工林が多く、除伐・間伐が実施されていない林分が多いと言えます。一方、高木広葉樹の立木本数は最大2,000本/haに達し、スギ人工林内での広葉樹の侵入が進んだ林分が多く見られます。

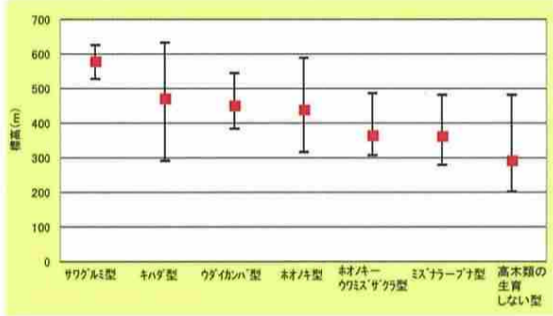
スギ人工林に生育する高木広葉樹の組成は、サワグルミ型、キハタ型、ホオノキ型、ミズナラ・フナ型、高木性広葉樹の生育しないタイプがみられます。

代表的なスギ人工林の概要

サワグルミ型	ミズナラ・フナ型	高木性広葉樹の生育しないタイプ
<ul style="list-style-type: none"> ○広葉樹林化し、一部では探さないとスギは見られない ○平均標高は579mで、スギの生育は極端に悪い ○高木広葉樹の立木本数はスギを上回る 	<ul style="list-style-type: none"> ○スギ・ササ、広葉樹<スギ型の混交林 ○立木本数はサワグルミ型に次いで多い ○ミズナラ・フナの高木類が生育 ○スギの生育状況は、不良から普通 	<ul style="list-style-type: none"> ○スギ・ササ ○スギの立木本数は最も多い。高木広葉樹はほとんど生育しない ○スギの生育状況は、普通・やや優良から優良の林分が大半を占める

タイプ型と標高の関係

タイプ毎の平均標高は、サワグルミ型の579m、キハタ型473m、ウダイカンバ型452m、ホオノキ型440m、ミズナラ・フナ型362m、高木性広葉樹の生育しない型の294mまで、タイプ型と標高は明瞭な関係を持っています。



○スギ人工林の生育状況は優良、やや優良、普通であり、丸太生産が可能です。
 ○林内には高木性の広葉樹は少ししか生育していません。
 ○林齢30~40年生が主体です。

○スギ人工林の生育状況は、やや優良から不良まで様々です。
 ○生育不良な林分には、ミズナラ・フナ等高木性の広葉樹が多く生育しています。
 ○標高300m以下の区域では、生育状況はやや優良、普通であり、丸太生産が可能です。

○スギ人工林の生育状況は不良からやや不良であり、広葉樹林化の進行が進んでいます。
 ○つる植物が繁茂し、樹木の成長を阻害しています。
 ○スギ人工林の林齢は20~30年生で、比較的林齢が低い林分が主体です。
 ○積雪深の大きい東向き斜面では生育状況が特に不良です。

□ 既存文献資料での報告
 フナの実生や稚樹が欠如した人工林やスギの生育の良い林分では、元の安定したフナ林に回復するまでには1,000~1,500年、フナの実生や稚樹が多少とも分布し、スギの成長不良な箇所ではフナ林への回復は800年程度と予測されています。

自然再生の基本的な方向性・目標と整備方針

自然再生の基本的な考え方



自然再生の目標



自然再生の基本的な方向

『白神山地周辺地域の森林空間利用タイプにおけるスギ人工林を元の天然林に戻す』ために、4つの基本的な考え方に基づき実施していきます。また、実のなる樹木をふやすなど、野生動物の生息環境にも配慮します。

- (1) 息の長い森林づくり
- (2) 自然環境の保全・再生
- (3) 人との関わりを重視した森林づくり
- (4) 多様な参加主体による整備

自然再生の目標は、短期的目標、中期的目標、長期的目標に分けて設定しました。なお、地球温暖化の影響により、白神山地のフナ林の面積は大きく減少すると予測されており、フナ種が優占する広葉樹林ではなく、フナ、ミズナラ、ウダイカンバ、ホオノキ、ウワミズサクラなどが混生する広葉樹林や、スギと広葉樹が混交する林を長期的な目標としています。

	短期的目標 約5年後	中期的目標 約30年後	長期的目標 約100年後
赤石川上流側	針広混交林 (スギとサワグルミ・キハタ・ウダイカンバ・ホオノキなどが混生)	広葉樹林 (サワグルミ・ウダイカンバ・キハタ・ホオノキなどが優占)	広葉樹林 (フナ・サワグルミ・ウダイカンバ・キハタ・ホオノキなどが優占)
赤石川下流側	スギ林 (林内に広葉樹が豊富に生育)	針広混交林 (スギとサワグルミ・キハタ・ウダイカンバ・ホオノキなどが混生)	針広混交林 (スギとフナ・ミズナラ・ウワミズサクラ・ミズキなどが混生)
暗門川	スギ林 (低木層に広葉樹が生育)	スギ林 (林内に広葉樹が豊富に生育)	広葉樹林 (フナ・ミズナラ・ウワミズサクラ・ミズキ・ホオノキなどが優占)



整備方針



凡例

調査対象区域
 スギ・ササ
 スギ・広葉樹混交林 (スギ>広葉樹)
 スギ・広葉樹混交林 (スギ<広葉樹)
 カラマツ等人工林
 崩壊地・雪崩地の草地等
 300m未満
 300m~500m
 500m以上

赤石川上流

- スギの抜き伐りにより広葉樹を育成します。
- 急激な林分構造の変化を避けつつ、スギ劣勢木、広葉樹の生育を阻害するスギを主体に強度に抜き伐りします。
- 列状間伐により猛禽類の採餌場の確保に取組みます。

赤石川最上流

- 原則として自然の推移。
- つる切り等の最小限の管理のみ行う。

赤石川下流

- スギの生育状況は比較的優良であることから木材利用も考えて、スギ伐期の長期化を図りながら、針広混交林を目指します。
- スギの抜き伐りにより林内への広葉樹の侵入を促進します。
- スギ小径木、広葉樹の生育を阻害するスギを主体に抜き伐りします。
- 孔状面へフナ等の広葉樹を植栽します。

暗門川

- 標高400m以上
 - ・広葉樹の生育を阻害するスギを主体に強度に抜き伐りして混交林化を図ります。
- 標高400m以下
 - ・スギの生育状況は比較的優良であることから木材利用も考えて、スギ伐期の長期化を図りながら、針広混交林を目指します。
 - ・スギの抜き伐りによる林内への広葉樹の侵入を促進します。
 - ・スギ小径木、広葉樹の生育を阻害するスギを主体に抜き伐りします。
 - ・孔状面へフナ等の広葉樹を植栽します。